



THE SERVICE CLUB OF THE YMCA
 AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S

The Y's Men's Club of Kanazawa

CHARTERED JULY 9, 1947

c/o KANAZAWA YMCA 44-1-202 SATOMI-CHO KANAZAWA 920-0998

国際会長主題	「とにかくやろうー成せば成る」	“Audere est Facere—To dare is to do”
アジア地域会長主題	「とにかくやろうー成せば成る」	“Audere est Facere—To dare is to do”
西日本区理事主題	「ワイズの原点、愛と奉仕で社会に貢献」	”Contribute to the Community through Active Services with Love”
中部部長主題	「先ず一步 楽しもう、学ぼう、働こう、そしてつなげよう」	
金沢クラブ会長主題	「One for All, All for One with Y's Spirits」	

8 月間強調 Youth Activities 2011

今月の聖句		8月強調月間	
<p>いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。これこそ、キリスト・イエスにおいて、神があなたがたに望んでおられることです。</p> <p style="text-align: right;">テサロニケの信徒への手紙一 5章 16節～18節</p>		<p>ユースと共にワイズの世界を拓きましょう！</p> <p style="text-align: right;">藤川 洋 Yサ・ユース事業主任 (広島ワイズメンズクラブ)</p>	
8月例会 プログラム		7月 クラブ活動状況	
と き	2011年8月18日 (Thu.) 18:30～20:30	第1例会 (7月21日 Thu.)	
と ころ	金沢ニューグランドホテル	メ ン：伊藤、影山、数澤、高口、幸正、澁谷、西尾、山内、山本 (9名)	
開 会 ・ 点 鐘	幸 正 会 長	メイキャップ：なし (0名)	
主 題	司 会 者	出席率：90%	
ワイズ・ソング	一 同	メネット：伊藤、数澤、高口、山内、山本(6名)	
今月の聖句	司 会 者	ゲスト：長谷川中部部長、八木書記、鈴木ファン	
ハッピー・バースデー	幸 正 会 長	ド主査、遠藤(名古屋東海)、草野功一、草野敬子(京都ウエスト) (6名)	
ゲスト紹介	幸 正 会 長	第2例会 (7月1日 Fri.)	
食前の感謝	山本達也君	メ ン：伊藤、数澤、澁谷、山内 (4名)	
~~~~~ 会 食 ~~~~~		メネット：山内 (1名)	
ス ピ ー チ 「台湾を愛した日本人」		<b>ニコニコタイム</b> 17,000円	
～土木技師 八田與一の生涯～	寫村 義隆氏	クラブファンド 累計 17,000円	
委員会報告	各 委 員	<b>B Fポイント</b>	
ニコニコタイム	伊藤仁信君	切手	0 kg 累計 0 kg
Y M C A の 歌	一 同	現金	0円 累計 0円
閉 会 ・ 点 鐘	幸 正 会 長		
会 長 幸正一誠	書 記 山内健司	第一例会：毎月第三木曜日 18:30～20:30	
副 会 長 澁谷洋太郎	会 計 高口昇	金沢ニューグランドホテル Tel (076)233-1311	
直前会長 数澤輝夫	メネット会長 数澤淑子	第二例会：毎月1日 18:30～20:00	
		金沢ニューグランドホテル 2F (トレド)	

伊藤 仁信

3月11日の東日本大震災から5ヶ月 になろうとしております。震災に遭れた方々は本当に耐え忍んできたことと衷心よりお見舞い申し上げます。これから更に復興に向けての別の厳しさが待っているとしますので、心身共に健康でありますようお願い致しております。

前回（ブリテン5月号掲載「パートⅠ」）に4月初旬の頃被災地にお見舞いに行った時の事を書きました。やっと生活道路が通じたが、電機・水道・ガスなど大半はまだ未開通でした。ホテルも暖房や食事もなく室内は毛布一枚とベッドがあるだけでした。しかし、それでも被災された方々に比べれば雲泥の差があり、改めてその辛さが偲ばれました。「パート1」では、目に映ったことを抽象的にしか書きませんでした。その後も多くの方々はテレビ・新聞・ネットなどの写真や報道で、その時の悲喜交々の出来事をお知りになったかと思えます。今回の「パートⅡ」では、震災に遭った方或いは震災現場に居合わせた方から直接お聞きしたことを2～3ご紹介したいと思います。

私の親戚で幼稚園を経営していた方の被災事故ですが、第一波の地震と津波で園児達を避難させようと送迎バスに乗せたが、その直後第二波がそこまで来るとの指示があったので取り敢えず園舎の二階に車から誘導して、あと園児が二人と最後の教諭一人だけという時一瞬のうちに津波にもっていかれた。その時の園児達の顔が忘れられない。これからの園児達の精神状態が非常に心配だ。大変な経験を子供達にさせたと悔やんでおりました。いろんな原因が重なりそのようになったのですが、今は被災地だけでなく何処でも言われていることだが先入観念、固定観念が判断を誤らせてしまうことです。今まで津波が来たことがない。昔の三陸津波の時も何でもなかったし、来たとしても数十センチだ。或いは日本一の堤防だから大丈夫だと安心していたことに左右された。これが大きな教訓とし、今後の災害等に生かせればと思います。何でも或る程度想定外のことも考慮しないと駄目な時代になったのかと感じました。

もう一つの話は、消防団員や警官の方々の話です。大きい都市には組織的にも立派な消防署がありますが、地方の小さな市町村特に最近合併するまでの村や町にはその地区の人達で消防団を組織し、普段は農業や漁業に従事し一旦緩急あれば消防の法被に着替え出動することになっていることは皆さんもご存じだと思います。「家など流され、壊され或いは濁流に飲み込



市消防署員の救援活動

出典 [www.yidio.com](http://www.yidio.com)

まれている人達を救助するときは、例えそれが自分の家であつたり家族であっても順番に救助することがこの法被を着る意味がある。その時の心境は自分も一緒にそこに行きたいと思ひ何度も思い止どまった。」と話されたが、その方の顔は涙と汗でくしゃくしゃになっていました。警官の方々も制服を着ると同じになるようです。今度の災害で第一線で働いていたのがこの様な方々です。言葉で上手く言い表せませんが、本当に涙が出て止まりませんでした。勿論この方々だけではないですが、この崇高とも言える働きがあつたればこそ、これだけの災害なのに皆さんが我慢に耐え前に進むことができたのだと思います。

私ごとで恥ずかしいですが、4月のお見舞いに仙台に行った時の事です。午後11時頃寒いし食べ物もないので寝ようとしてベッドに横になりウトウトとなった時、急にベッドが左右に揺れ出し丁度ハンモックに寝たように感じなかなか起き上がることが出来なかった。やっと地震だと気がつき真っ暗だし幸いにも服を着たまま寝ていたので、ドアを開けようとしてノブを回したが回らない。いくら力を入れても開かない。柱が歪んだのかと思ひ今度は窓から逃げようとしたが9階だと気づき、女房はと見るとテレビを抱いておりどうしたら良いか判らなくなり諦めかけたら揺れも治まったので、もう一回ドアを開けたらすぐ開いた。二度吃驚、その間60～70秒位だと思う。震度6強の地震とかだったと聞きましたが、もっと詳しくは恥ずかしいので想像してください。

今は、前述のように災害に関連した出来事が続々と報道され、多くの方は記憶に新たなことと思ひます。私の様な慌てん坊では駄目ですが、日本国民は如何に忍耐強くしかも前向きな姿勢で積極的に事に当たること出来る国民であり、世界に誇れる精神の持ち主であると改めて感心しました。ただ甚だ残念に思つたのは、

この様な事に対して公のつまり時の政府なり國家として直接的な救済の手だてが遅く歯痒く感じました。しっかりした国民の性格を逆手に取り、すぐには手を出さない悪い癖があるようです。私もその国民の一人ですが同じ民族なのになぜ違うのか不思議でたまりません。もっと早く救済等の処置をすれば、被害をより少なくする事が出来たのではないかと思います。

ワイズをはじめ日本国中から、世界中から暖かい救援の手がさしのべられ大変感激している一人です。いずれにしてもこの様な自然災害は、人の力だけではどうすることも出来ない部分があります。何事にも共通することですが、二度とこの様な悲惨な目に遭わないよう常日頃から対策なり準備を國家は勿論のこと私達も怠ってはならないと痛感しました。震災場所の紹介が遅れましたが、宮城県の東南部で私が就職する頃まで育った所です。この地域には、まだ実家はじめ大部分の親戚が居ります。

### 【7月例会報告】

7月例会には長谷川中部部長の訪問を受け、八木中部書記、鈴木ファッド主査、遠藤メン（名古屋東海）が随行していただきました。その上、お仕事の都合で6月までメンバーで、7月から京都ウェストに、転籍された草野メン、メネットがゲストとして参加され、久しぶりに賑やかな例会となりました。

定刻に、新会長幸正メンの点鐘によって開会となり、主題朗読、ワイズソング、聖句朗読、ハッピーバースデイに続き、長谷川中部部長のご挨拶、ゲスト紹介が行われました。和やかな食事の後、会長方針のスピーチがあり、後日下記のようなメッセージが寄せられました。



長谷川中部部長のご挨拶を受けて

2011-2012 キックオフ

幸正 一誠

64年の永き歴史の有る金沢クラブを、8名のメンと

7名のメネットと共に乗船し2011-2012に向けて新たな船出を致しました。マストには【One for All, All for One with Y's Spirits】との金沢ワイズ丸の『マインド』を大きく掲げ大海になびかせています。この『マインド』はこれから来るであろう嵐やシケに対し



幸正会長を挟んで ゲストの方々

いかなる時も Y's Spirits を基に、乗船者一人一人が持つ全ての知恵と技を出し、その時を乗り越える基になるのです。しかし、この航海はまた『マインド』を基に楽しい・笑いの有る航海で在りたいものです。その為には 航海中に発行されるブリテンを熟読し楽しい・笑いの有る一時につなげましょう。ブリテンには毎号メン・メネット各1名の寄稿文が有ります。特



6月生れの草野君は一ヶ月遅れのハッピーバースデイ

にこの寄稿文に注目し例会に望みましょう。この中には必ず寄稿者の隠れた人間性や隠れた個性が有ると思います。これらを話題に楽しい・笑いのある例会としましょう。この様な例会に成れば、必ずや他の乗船者も増えるのではないのでしょうか。この船は、まだまだ乗船可能です。乗船してもらおうべくこの船のご案内としてブリテンを配布しましょう。まずは一人が一人の乗船者を増やしましょう。また 我々の船と平行しY MCA丸も航海中です。Y MCA丸は船長と航海士の2名で運行中です。時には我々の航海術を必要とします。皆さんのパワーをお貸しください。共に安全に航海しましょう。

どうか乗船者の皆さん！マストに掲げた『マインド』をいつ如何なる時も降ろす事無く、2011-2012 なる大海原を「楽しい&笑いのある」航海に致しましょう。



全員集合！！

**Happy Birthday**

澁谷洋太郎君	8月12日
数澤 輝夫君	8月20日

**9月の担当**

9月 ブリテン執筆：影山 雅一君  
澁谷 節子さん  
9月 卓話担当：メネット会

**YMCAのお知らせ**

☆早天祈禱会

日時 2011年9月1日(月) 6:00~7:00  
場所 金沢YMCA集会室

**メ ネット 報**

2011年総会とその後に・・・

7月17日13時から金沢の奥座敷湯涌、その街道沿いの「つばき」という季節料理屋で、メネット会総会が開催された。このお店に決めるにあたり、お部屋は隔離され、食事のみではなく打合せの時間がとれる所という我々の希望条件にぴったりのお店が与えられ、数澤会長の司会で新年度の年間行事と役割分担が決められた。引き続き伊藤会計より決算報告がされ、昨年同様繰越金が年々少なくなっているのが現状で、今年度は更に毎月の行事等について工夫をしながら節約を心掛け、しかし活動は楽しく充実したものにと話合った。お店は四季折々の食材、豊かな自然、季節の移ろいを堪能くださいとパンフにあるとおり、お料理も器も部屋の設えもお店の雰囲気にもぴったりで、オブザーバーとして参加された二人のメンとメネット6名全員が満足して15時に会を終えた。

**髙村 義隆氏 プロフィール**

金沢市河原市町ハ17 TEL(076)257-3616  
建築設計・施工 有限会社 島義

**お知らせ**

☆ 東日本大震災義捐金

日本YMCA同盟宛、7月26日に45,350円を送金しました。

☆ 中部EMC事業打合せ

日時：7月30日(土) 13:00~16:00  
場所：名古屋YMCA代官町会館  
参加者：幸正、澁谷 (2名)

☆ 第24回アジア大会

日時：8月5日(金)~7日(日)  
場所：シルクパレス宜蘭ホテル  
参加者：澁谷ご夫妻 (2名)

☆ 第15回中部部会

日時：2011年8月28日(日)  
場所：名鉄ニューグランドホテル  
参加予定：伊藤 〆、数澤 〆、幸正 〆、澁谷 〆、山内 〆、山本 〆 (11名)

私はその後、歌劇座で少年少女オーケストラコンサートへ行く予定があり送っていただいた。そのコンサートの最後に「ふるさと」を出演者と観客が共に歌う事になった。今年3月11日14時46分に起こった大地震、大津波、そして原発事故による放射能汚染の被災地では、この「ふるさと」を口ずさむ被災者の方々のニュースを度々報道されていた事を思い出した。被災地の皆さんはどのような思いで口ずさんでいらっしまったのか・・・あの日テレビに映し出された場面には黒い波が田畑を飲み込み、川はあたり一面に土手を取り越え住宅街に押し寄せていく恐ろしい場面だった。一瞬私は映画を観ているような気がした。4ヶ月が経ち復興されていく日々、私達は当初示した関心も薄らいで行く事になりがちなのは・・・ふるさとを歌いながら、神様がこれでよしと思われる日が来るまで祈り続けていかなければならない事を新たに思い願った。

(高口 紀子 記)